

長濱からのメッセージ

代表取締役社長
長濱 好教

お客さまとともに 新たな挑戦！ G5^注

平素より皆さまには格別のご愛顧を賜り心より御礼申し上げます。本年も早いもので、この“そるねっとつうしん”がお手元に届くころには桜の開花は東北地方まで進み、新入社員のみなさまも加わり清々しい気持ちでお仕事に取り組まれていることと思います。

さて昨年度は、4月よりお客さまへの活動に直結する組織再編と新機能のチームを新設してスタート致しました。まず組織再編では、目的としましたお客さまへの提案スピードアップ、先進的な技術を適用した新たなビジネスへの着手、そしてメンバーのリソースダイナミクスによるスキルと業務の最適化でいくつかの成果を出すことができました。これは弊社の活動に対するお客さまの日ごろのご理解とご支援の賜物だと認識しております。本当にありがとうございました。

新機能のチームにおきましても、社内パイロットとしてスタートした“健康プロジェクト”は、お客さま、パートナーさまとの協業によって製品化につながり、またIoTを駆使した“現場の安全・安心ソリューション”は、お客さまに採用いただくことが出来ました。まさに新しい仕事・課題解決にお客さまとともに熱く挑戦した結果であり、大変誇りに思っています。



私どもは2017年に創立50周年ならびにJBCCホールディングスへの参加10周年を迎えます。その節目への架け橋であるこの2016年度は、創立の原点である“お客さまとともに新しい仕事/課題解決に熱く挑戦する、真のプロフェッショナル・チームとなる”を常に念頭において、挑戦する風土の定着化を図り、付加価値の高い

サービス提供を追及し、お客さまの成功と地域の皆さまの生活活性化へ貢献できるよう進んでまいります。その施策として「ヘルスケア」、「製造・エンジニアリング」、「公共・公益」、「地域連携・活性化へのソリューションサービス」、「お客さまの競争力向上に繋ぐITプラットフォーム・ソリューション」の5つを、より一層の価値を高める分野と定め、さらに経営資源を集中してまいります(SOLNET Growth 5)。お客さまや地域の皆さまの心に残る50周年を目指してこの一年間を進んでまいりますので、今後とも変わらないご愛顧とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

注) G5は「SOLNET Growth 5」の略

今年度も積極的に展示会に出展します！



開催日：6月15日(水)～17日(金)

会場：西日本総合展示場 新館

九州・山口地域の製造業全般の総合展「西日本製造技術イノベーション2016」に、出展いたします。今回ご紹介させて頂くソリューションは以下のとおりです。

HYBRID製造1901/HYBRID調達

- 製造業の生産管理、調達管理、在庫管理の標準機能を網羅
- フレキシブルなシステムテンプレートで業務にフィット
- 実際の業務でお使いいただくイメージをデモにてご覧ください

モバイル設備点検システム

- 正確で安全な点検をサポートする工場の安全管理ソリューション
- スマートグラス、音声認識・音声対話ウェアラブル端末など最新のIoTデバイスも体感いただけます

HealthPartner2020

- ウェアラブルデバイスを活用した健康管理ソリューション
- カラダが見える！アクティビティトラッカー ※1

セキュリティソリューション（ITインフラ）

- ウイルス侵入によるデータ破壊・情報漏えいリスクを低減する情報セキュリティソリューション

※1 アクティビティトラッカーは、セイコーエプソン(株)の商標または登録商標です

JB Group IT Forum 2016

つながる！ IoT × 現場 × Ecoシステム

基調講演：『ロボットと未来社会』

大阪大学大学院基礎工学研究科
システム創成専攻 知能ロボット学研究室
教授（特別教授）

石黒 浩氏

展示：最新のIT活用を実際に見て、触れることができます。是非、弊社ブースにもお越しください。

モバイル設備点検システム

HealthPartner2020



開催日/会場

■名古屋：5月18日(水) ヒルトン名古屋

■東京：5月20日(金) ザ・プリンス パークタワー東京

■大阪：5月24日(火) ホテル阪急インターナショナル

公式サイト：<http://www.jbgroup.jp/it16/>

はじめまして。新入社員です！



春の陽気が感じられる4月吉日。お陰さまをもちまして、今年も2名の
新入社員を迎えることができました。

目をキラキラと輝かせ清々しい表情で入社してきた二人は、本社での入社式を終えると、
長濱からの励ましの言葉を胸に東京へと向かいました。東京ではJ Bグループ全体での入社式、
翌日からは3か月間の合宿研修にて社会人としてのルールやマナー、チームワークの重要性を
学びます。

仲間との交流を通じて、新しい発想や若い感性を磨き、
私たちを刺激してくれることでしょう。

Q1. ソルネット社員としての目標
Q2. 学生時代に頑張っていたこと
Q3. 趣味や特技
Q4. 私ってこんな人です！

屋原佑香(おくはらゆか)

- A1. 前向きに仕事に取り組み誰よりも
根性のある社員を目指します
- A2. 接客業の楽しさと大変さを
肌で感じながら、3年間
アルバイトを頑張りました
- A3. 買い物、音楽を聴くこと、
歌うことが大好きです
得意なことは整理整頓！
- A4. 表には出さず、よく慌ててしまいます
「まずは何か行動する」タイプです



高尾奈々(たかおなな)

- A1. 目標に向かって確実に行動する
力を持てる人になりたいです
主体性をもって行動していきます
- A2. バスケットボールサークルや接客
業のアルバイトを頑張りました
- A3. 趣味は、音楽鑑賞・ピアノ・旅行
細かい地道な作業が得意です
- A4. マメで負けず嫌いだとよく言われます
緊張しやすいところもあり、そこも
含めて自分の強みとして、
活かしていきたいです



波乱万丈！？ 社員ボウリング大会

(社員会イベント)

恒例のボウリング大会を2月に実施しました。招待した新入社員の二人(当時、内定者)と
社員・パートナーさま合わせ、およそ100名の参加者です。

ボウリング大会は、主催の社員会が、参加者みんなが平等に楽しめるようにと、過去の成績
に基づいた公平なハンディ設定をした上でチーム編成を行う
ので、普段なかなか話すことのない社員同士でチームになる
ことが多く、よいコミュニケーションの場にもなっています。

ゲームが始まると、初めのうちこそ遠慮がちだった
各チームもだんだんと打ち解けて笑顔が増え、ハイタッチ
しあうようになっていきます。公平なハンディ設定のおかげもあり、表彰式は波乱万丈(?)、
思いがけない順位になるメンバーもいて、笑いの絶えない楽しい一日になりました。



業務に活かせるヒント

～ CS活動 発表会 ～

1月26日、弊社で継続的に取組んでいるCS活動に今年度エントリーした5チームが、活動成果を発表しました。

どのチームも「お客さまの声を理解し、期待に応えるためには？」という問いに仮説を立て、業務に密着した改善を実施していました。活動をしたチームだけでなく、発表を聞いた社員も、自身の業務に活かせるヒントを得られたようです。

No.	チーム名	事業部門	テーマ	発表者
1	今日のCS CountDown Hyper	営業統括 営業部	タイムリーな活動情報共有 ～効果的なお客さま対応の実現～	寺師 岳陽
2	握って、握って、また握って	SI&S サービス 推進部	お客さまの本来のニーズを見極めた提案の実施	中村 一哉
3	Team CCI	SI&S SI推進部 分益SOL Gr	情報提供方法の改善 ～チェンバースバックユーザーの皆様と これからユーザーになっていただく皆様へ～	江利角 昌巳
4	Team 産賊綱	営業統括 産業SOL 事業部	基盤運用業務の効率改善 ～業務の見える化～	武内 雄介 中山 和幸
5	相棒	事業管理 経理財務	ケイリのCS	藤本 祥子

最優秀賞

講評及び結果発表

各部門のCS活動テーマ



産業SOL発表者 と 長濱 (中山(左)、武内(中))

その中で今年度特に高い評価を得たのは、産業SOL事業部の活動でした。システム保守の業務が見える化し、お客さまと一緒に一つ一つの業務範囲・内容を明確にし、精査・検討を重ね、その結果、お客さまにもご理解頂きながら業務を再定義でき、更に業務効率化も図ることができました。

今後も、各部門で実施しているCS活動やその成果を社員みんなで共有していきながら、社全体の活動品質向上を目指してまいります。



未来へ、かける。北九州マラソン2016



今年も本社近くの沿道で、北九州マラソンを応援しました。スタート地点から8kmのこの場所は、ランナーのスピードも速く、滝のようなその勢いに圧倒されます。一人ひとりが楽しみながら真剣に参加している様子に、私たちの応援の声も次第に大きく、熱くなっていきました。「ありがとう」と笑顔を返してくださったランナーのみなさん、お疲れ様でした！

お知らせ) ホームページにも掲載を始めました!!

今年気になるITトレンド



こんにちは。今号は少し趣向を変えて、弊社でも近年注目し取り組みを進めている、最新のITトレンドについてご紹介します。

■IoT (Internet of Things) モノのインターネット

IoTとは、世の中に存在するあらゆるモノがインターネットに接続して通信を行う技術を指し、遠隔からモノの状態を認識したり、制御・操作することでより便利な世の中が実現できると期待されています。加速度的な普及には、超小型デバイスの低価格化や無線の広帯域化、収集した情報をビッグデータとして分析・解析が行える環境整備など、新たな価値を生み出すテクノロジーの連携実現が背景にあります。2020年には、世界中で500億を超えるIoTデバイスが接続されると言われており、いろいろな分野での活用が予想されます。

弊社でも現場の気象情報や作業者の生体情報を収集・分析して現場作業者を熱中症から守る安全ソリューションや、ウェアラブルデバイスから収集したバイタル情報を可視化・管理する健康ソリューション(補足1)に取り組んでいます。

補足1) 社員健康プロジェクトの詳細は「[そるねっとつうしん 号外](#)」参照

■コグニティブ・コンピューティング

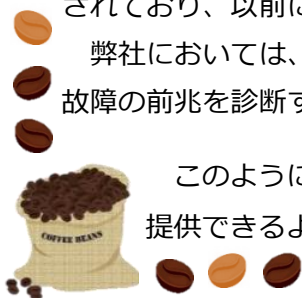
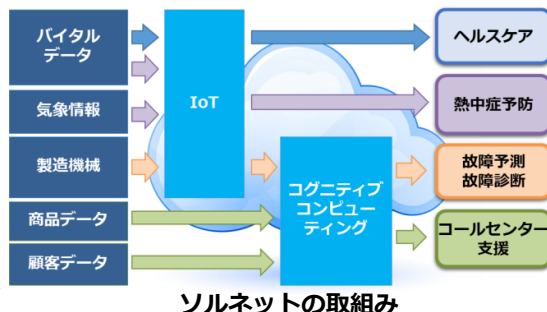
コグニティブ・コンピューティングは、システムが自主学習し、その経験に基づき非定型のデータから瞬時に分析結果を応えます。この言葉が広く知られるようになったきっかけは、2011年にIBM社のWatsonが全米のクイズ王に勝利したことでした。

従来のシステムは、整理された定型のデータから、「価格が200万円～300万円の車は？」といった条件が明確な質問に答えることは得意ですが、「あのお客さまが好みそうな車は？」といった抽象的な質問には応えることができません。コグニティブ・システムは、「さまざまな購買データや最近の嗜好をデータ分析すると、この車がお好きですよ」と応えてくれます。

これまで、このようなシステムの利用には、高価なハードウェアやソフトウェアが必要でしたが、前述のWatsonは、機能的な制限はあるものの、クラウド上のサービスとしても提供されており、以前に比べ利用し易い環境が整ってきています。

弊社においては、コールセンターでの利用や、工場で稼働する機械の稼働音や諸データから故障の前兆を診断するようなソリューションの構築に取り組んでいます。

このように弊社でも、いろいろなものを組合わせて新たな価値をお客さまに提供できるよう、新しいITトレンドにも積極的に取り組んでいます。



※ IBM, Watson は、IBM社の米国およびその他の国における商標または登録商標です

誇らしく胸を張れるか

先日、母校のOB・OG交流会に初めて参加させていただきました。現役生は就活を前にした3年生で、どの学生さんもととても真面目に、自分の進むべき道についてしっかりと考えていましたが、就職については一様に不安を感じている様子で、次々に質問があがりました。

そんな中私も、IT関係の仕事に興味を持っている学生さんから、「どんな会社ですか？」と尋ねられました。しかもその学生さんは、あるIT企業をすでに訪問しており、その企業との「違い」を知りたいというのです。

それは、ベンチャーから始まった比較的新しい会社で、Webシステムを専門に最先端の技術をどんどん取入れ、新しいサービスを次々と生み出しているところでした。「この学生さんは、その新しさ・軽やかさに魅力を感じているに違いない」と思ってしまった私は、一瞬たじろいで言葉に詰まってしまいました。

すると、たまたま一緒に参加していた同僚（大学の同級生）は、まったく躊躇することなく、その学生さんの目をまっすぐ見ながら、こう言ったのです。

「うちの会社の特徴は、北九州で約50年間、ものづくりのお客さまをはじめ、地域企業のお客さまの困りごと、ひとつひとつにじっくり向き合いながら、一緒に解決してきたってということだと思います。」

その同僚は、あるお客さまの大規模なシステムを立上げからずっとオンサイトで担当させていただいており、お客さまとともに歩んできたその道のりが、自信となって、この一言に集約されているのだなと少し誇らしく思いました。

これまで地道に築いてきたソルネットのよさを、今一度心に刻みつつ、日々進化するITの新技術やサービスの活用にも挑戦し続けることで、これからも胸を張ってソルネットを語れる私たちがいたい、と強く思いました。 (Y.Nishino)



編集後記

コグニティブ。直訳すると「認知(型)」という意味です。人工知能(AI)とは少し違って、あらゆる自然言語を理解・学習し、人間の意思決定や活動をサポートすることを目指しているそうです。しかも会話から性格や好み、感情までも「認知」することのこと。いつも近くに自分を理解してくれる“親友”がいるイメージ？ 私たちの生活がどんな風になるのかを考えるとワクワクしますね。(K.K.)

